

静岡県環境放射能測定技術会（令和3年度第2回）会議録

1 開催日・場所等

日時	令和3年9月8日（水）15:00～16:30
方法	Web会議
出席者	構成員：加藤危機管理監代理兼危機管理部部長代理ほか15名
議事	<p>議事</p> <p>(1) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第190号</p> <p>(2) 静岡原子力だより190号（案）</p> <p>報告</p> <p>(1) 令和3年度第2四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報</p> <p>(2) 浜岡原子力発電所の現況</p>
配布資料	<p>資料1 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書 （令和3年4月～6月）（静岡県環境放射線監視センター）</p> <p>資料2 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書 （令和3年4月～6月）（中部電力(株)浜岡原子力発電所）</p> <p>資料3 浜岡原子力発電所の運転状況等（中部電力(株)浜岡原子力発電所）</p> <p>資料4 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第190号（案）</p> <p>資料5 静岡原子力だより189号（案）</p> <p>資料6 令和3年度第2四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報 （静岡県環境放射線監視センター及び中部電力(株)浜岡原子力発電所）</p> <p>関連資料1 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査解説資料</p> <p>関連資料2 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第189号</p> <p>関連資料3 静岡原子力だより189号</p> <p>中部電力報告資料 浜岡原子力発電所の現況</p>

2 審議事項

- (1) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書（令和3年4月～6月）
- (2) 浜岡原子力発電所の運転状況等（中部電力(株)浜岡原子力発電所）

測定機関が、資料1（環境放射線監視センター）、資料2・3（中部電力(株)浜岡原子力発電所）により測定結果を報告した。

<質疑応答>

構成員：資料1添付P4～P5について。放射性セシウムの土壌や原乳中の減衰の仕方を示していると思うが、この図はこのままだと半減期で実際にどういう風に変化しているのかわからないので、片対数のグラフでも書いてほしい。

監視センター：グラフについて検討する。

(3) 浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第 190 号 (案)

事務局が、資料 4 により、浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査結果第 190 号 (案) を説明した。

< 審議結果 > 承認。

(4) 静岡原子力静岡原子力だより 190 号 (案)

事務局 (原子力安全対策課) が、資料 5 により、静岡原子力だより 190 号 (案) を説明した。

< 審議結果 > 承認。

3 報告

(1) 令和 3 年度第 2 四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報

測定機関 (環境放射線監視センター及び中部電力株) が、資料 6 により令和 3 年度第 2 四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報を説明した。

< 質疑応答 >

構 成 員：原乳中の放射性セシウムについて平常よりも高かったという話だが、機器に関する調査はやられているようだが、原乳の場合は、オリジンは食べ物である。つまり、サイレージやほし草、稲わら等、輸入物の飼料が多いと思うが、そういうものがどういうものであったのかということ、どこか備考にでも書かないと全体像は把握できないのではないかと。原乳の水分量の関係から、あまり放牧した青草は食べさせないと思うが、たいていの場合サイレージであるとか配合飼料でやっている、そうすると輸入品や静岡県外からの搬入が多いので、そういった面についても調査をした方が原因究明にもなるのではないかと。

監視センター：同様の意見は昨年度もいただいて、昨年 3 四半期にこちらで追加調査で、何を食べているのか、掛川市下土方、菊川市嶺田の農家さんから聞き取りし、飼料もいただいて調査をし、報告もした。これは昨年度の報告なので今年度は飼料が変わっている場合もあるので、また確認する。どういった飼料を食べているかについて速報等データにのせるのかどうかはこちらで検討させていただきたい。

構 成 員：具体的にこの掛川菊川の農家さんがどの農家さんで、どの飼料を使っているかは現時点で私はわからないが、一般的に中遠地域の農家さんご自分で飼料作物を作られている方は少なく、ほとんどが輸入の牧草、配合飼料はほぼすべて輸入のものである。今回変動幅からどのくらい超えていたのか、原子力の方の知識はなくわからないが、もし仮に大きな変動があった場合の原因究明としては、例えば輸入の乾牧草そのものを今年になって購入先を変えたとか、購入先の商社を変えないがその輸入先が例えばアメ

リカからカナダになったとか、飼料の輸入先がもしかしたら関係しているのかなと一般的に考えられる。この地域の方たちの牛が放牧されていることはまずない、地場でとれた草から経由されている可能性は非常に低い地域かなと考えられる。

(2) 浜岡原子力発電所の現況

中部電力(株)が、中部電力報告資料により、浜岡原子力発電所の現況について説明した。

<質疑応答>

構成員：排気筒の切断をして、最終的には切断したものは放射性廃棄物ではない廃棄物として産廃業者に処理してもらおうということだったが、中部電力としては、結局この最後の産業廃棄物として、きちんと処理することまでが企業の責任なのかなと私は思うが、その産業廃棄物を処理する会社がきちんとした会社であることを確認しているのか。

中部電力：決してこれが初めてのものではなくて、これまでも発電所では屋外の機器とか管理区域ではない機器については、産業廃棄物として処理処分してきている。それは地域の産業廃棄物処理業者を複数、実績のある業者と提携しており、いずれもその都度契約している。当然、産業廃棄物になるものについてはマニフェストの制度があるので、発生元責任としてそれがしっかり処分するまで追う、レポートをとっていき、というやり方で法律に基づいて実施している。

構成員：可搬型検査機器の発火というのがピンとこない。これは何らかの原因により、と書いてあるし今も原因究明は図られていると思うが、機器のメーカーはなんとおっしゃっているのか。機器に問題があったのか、それとも取り扱い上に問題があったのか。

中部電力：我々も納入元やあるいは御前崎消防含めて議論している。一つ言えるのはこれまで同様の発火の経験はないというのが1点。我々も同様の機種機器を15台ほど持っているが、10年ほど前から同じような使い方を使ってきている。現状においては、物が悪かったのか使い方が悪かったのか特定はできてないが、今の時点としては、偶発的なものも含めて、頻度は高くないと考えている。

一方で二度三度続くようになると、しっかりもっと踏み込んでやっていかないといけないと思うが、現時点においては、運用として、電源を切っておく、バッテリーは外しておくということで、熱を出すものを外しておけば大方のリスクは低減できる、というのが私どもの判断である。

構 成 員：時期が時期なので教えて欲しい。中部電力で新型コロナのパンデミックが発電所で起こらないとはかぎらない。それに対しての対応を、今までどういう対応していたのか、将来に関してどのような対応を考えているのか教えて欲しい。

中部電力：現在は、長期停止中で燃料も相当冷えているので、万一のことがあっても時間的余裕はあると思っている。現在審査中だが仮に運転を想定した場合には、やはり熱的にはもう少し厳しい状況で時間的にも厳しい状況になっていくと踏まえて、最低要員の確保というのは当然考えている。最低要員を確保するために、例えば最低要員をパンデミック環境下に置かずに、ローテンション対応するとか、そういう状況が来た場合やっていく必要がある。特に運転員とか交代勤務者、場所を離れられない要員についてはそういう考えでいる。

現状においては、在宅勤務等を使って知らない人との接触をなるべく避けて、人流を抑えるというのが大きな手段となっている。こうやって勤務しているときにはマスクをして、距離をとっている、等が我々の対策である。

以上